

土地改良施設管理業務にシステムを活用した事例を紹介します。

(1/2)

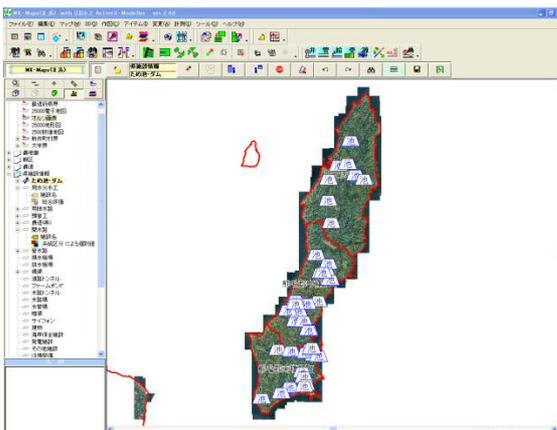
活用する団体： 県，市町村および土地改良区

取組概要

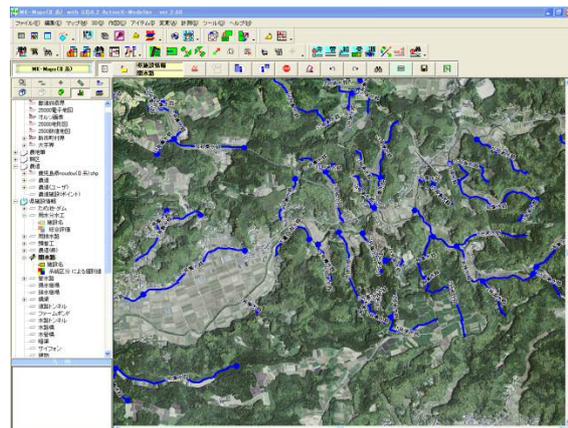
内容：農地管理だけでなく，土地改良施設（公共施設）の管理において位置と施設の概況を管理し，今後の更新計画業務に活用している。

経緯：①従来は，施設の管理団体が各々紙媒体に施設位置を記載し，別途の施設台帳により管理していた。

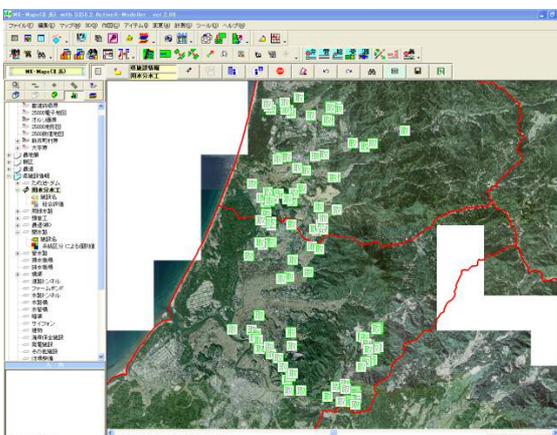
②当該施設の位置情報をGISに作図を行い，施設の情報を整理し施設の維持管理や施設の長寿命化を図りたい。



ため池・ダム施設データ



水路工施設データ



用水分水工（ゲート工）施設データ

期待される効果

- ①既存の土地改良施設の状況(位置, 概況)等が容易に把握できる。
- ②当該施設の属性として, 施設の点検状況を入力することにより, 今後の更新計画策定に活用できる。



・マップ上の施設を選択すると属性値が表示される。

・当該施設に関するその他の情報を「外部データベース」として管理ができ, 水土里情報システムと連動して閲覧・データ修正・データの取り込みが可能。

・位置情報取得可能なカメラ(GPS機能付きカメラ)で撮影した画像をシステムに取り込み, マップ上に表示させることも可能。

施設現況写真

・各種調査票・設計図面等を関連ファイルとして連動して参照することも可能。

今後の活用予定

施設の日常点検情報を蓄積し, 更新事業の基礎資料として活用したい。

利用者の声

今後の施設の管理においては, 点検や補修などの情報を集約化することで施設の更新計画時に役立てる。